

関西広域環境保全計画（第3期）案について

令和2年1月11日
広域環境保全局

1. 関西広域環境保全計画（第3期）について

広域環境保全局では、関西広域環境保全計画（以下「計画」という。）を策定し、「地球温暖化対策」、「生態系保全」、「資源循環の推進」、「環境学習の推進」の4つの分野における取組を実施してきた。

今年度が現行計画の最終年度であるため、有識者会議での意見などを踏まえ、次期計画についての検討を進めてきた。

このたび、次期計画（中間案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果や、令和2年度に向けた本部事務局におけるプラスチック対策の検討状況を踏まえ、次年度からの計画（第3期）を策定する。

2. 計画（中間案）（パブリックコメント）の結果

意見募集期間：令和元年11月6日（水）～令和元年11月29日（金）

提出意見と意見に対する考え方：別紙1のとおり。

3. 計画（中間案）（9月14日産業環境常任委員会資料）からの主な変更点

本部事務局における「プラスチック対策の推進」に関する検討状況等を踏まえ、分野横断的な課題に関する記述を変更する（別紙2）。

4. 今後のスケジュール

年月日	広域環境保全計画（第3期）	第4期広域計画
令和元年 12月22日	（連合委員会）最終案の協議	同左
令和2年 1月11日	（連合議会 産業環境常任委員会） 最終案の説明	（連合議会 総務常任委員会） 最終案の説明
1月23日	（連合委員会）最終案の確定	同左
2月15日	（連合議会全員協議会） 最終案の説明	同左
3月1日	（連合議会）最終案の提出	同左

関西広域環境保全計画（第3期）（中間案）に対する御意見、御提言と 関西広域連合の考え方について

「関西広域環境保全計画（第3期）（中間案）」に対する府県民意見等を募集した結果、2名から延べ5件（うち意見の公表を望まないもの0件）の御意見・御提言をいただいた。いただいた御意見・御提言に対する関西広域連合の考え方は以下のとおり。

整理 番号	御意見・御提案	御意見・御提案に対する考え方
1-1	交流型環境学習を関西の各地で実施したほうがよいのではないのでしょうか。 （HPでは、滋賀県の琵琶湖と和歌山県の天神崎の2か所だけのようですが、関西には自然豊かな場所がもっとたくさんあります。）	関西地域には自然豊かな場所が数多くあり、今後は、滋賀県の琵琶湖と和歌山県の天神崎以外でも交流型環境学習事業を展開していきたいと考えます。
1-2	幼児からの教育も大事ですが、たくさんの知識を身につけ、自分の考えをしっかり持ち始める高校生や大学生の時期にも、たくさんの人が学べる機会があるといいのではないのでしょうか。 環境学習に興味をもつ一部の人は、自主的に学習し、行動をおこすことをしていますが、ほとんどの人は改めて考える機会がありません。 若者の興味をそそるような企画があればいいのですが。	高校生や大学生などの若者を対象に、環境学習の機会を設けていくことは、非常に重要なことであり、環境学習事業の実施にあたっては、積極的に参加を呼び掛けていきたいと考えます。 また、高校生や大学生などからアイデアを募集するなど、若者が興味を持って参画できる事業についても検討していきたいと考えます。
2-1	（環境学習について） 関西には豊かな自然がたくさんあるので、色々な場所で環境学習をしていくことが大事。	(1-1 の考え方に同じ)
2-2	（プラスチックゴミについて） 市街地ではレジ袋、お菓子の袋、ペットボトルが道路や川に落ちているが、田舎の方では肥料（袋）やビニールシートが落ちていたりするので、対策が必要。	プラスチックごみ対策は、各家庭からだけではなく、工場、農地、観光地など様々な場所から排出されることから、分野横断的な課題として、広域連合全体で対策を検討していきたいと考えます。
2-3	（プラスチックゴミについて） また、プラスチックゴミだけでなく、ゴミ全般の散乱を抑えることが必要。	広域環境保全局では、マイバッグ運動やマイボトル運動などのプラスチックごみ削減につながる取組をはじめ、ごみ減量化に向けた3R（リユース、リデュース、リサイクル）の取組を推進しています。

計画中間案（9月14日産業環境常任委員会資料）からの主な変更内容

頁	計画（中間案）	計画（案）
14	<p>（１）大阪湾等における海ごみ</p> <p>近年、海ごみ、とりわけプラスチックごみについての関心が世界的に高まっている。大阪湾の海ごみは沿岸から流入するだけでなく、淀川でつながる流域全体からも流入することから、関西広域連合では、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 海ごみ発生源対策部会において、大阪湾の海ごみ発生源抑制の枠組みについての検討を進めてきた。また、令和元年6月に、関西広域連合、構成府県市、関係団体等で構成する「琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム」を設置し、効果的な海ごみの発生抑制に向けた情報共有・意見交換を行っている。</p> <p><u>持続可能な社会の実現に向けて、広域環境保全局としても関係分野事務局をはじめとする関係者との情報共有が必要である。</u></p>	<p>（１）プラスチック対策</p> <p>近年、海ごみ、とりわけプラスチックごみについての関心が世界的に高まっている。大阪湾の海ごみは沿岸から流入するだけでなく、淀川でつながる流域全体からも流入することから、関西広域連合では、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 海ごみ発生源対策部会において、大阪湾の海ごみ発生源抑制の枠組みについての検討を進めてきた。また、令和元年6月に、関西広域連合、構成府県市、関係団体等で構成する「琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム」を設置し、効果的な海ごみの発生抑制に向けた情報共有・意見交換を行っている。</p> <p><u>また、プラスチックごみの削減のためには、製造・流通・消費・廃棄等の各過程に関わる事業者や住民など多様な主体が相互に連携・協力しつつ、実践的に取り組んでいく必要がある。このため、資源循環の推進に関する取組に加え、産業分野など分野横断的な取組が必要である。</u></p>
21	<p>（３）循環型社会づくり（資源循環の推進） （SDGs との関係） 【省略】 （取組の方向性） ○ 3 R 等の統一取組の展開 <u>・「ごみ減量宣言！関西」をキャッチコピーとして、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指して、マイバック運動や</u></p>	<p>（３）循環型社会づくり（資源循環の推進） （SDGs との関係） 【省略】 （取組の方向性） ○ 3 R 等の統一取組の展開 <u>・ G20 大阪サミット開催を契機として行った「関西プラスチックごみゼロ宣言」を踏まえ、プラスチックごみの削減に向けて、</u></p>

	<p><u>マイボトル運動などの広域的な普及啓発を行い、気運の醸成を図る。</u></p> <p>・<u>G20 大阪サミット開催を契機に発出した「関西プラスチックごみゼロ宣言」のもと、事業者、関係団体をはじめ、多様な主体と連携しながら、プラスチックごみ削減に向けた取り組みを強化する。</u></p> <p>・<u>「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づき、国が定める「基本的な方針」の内容を見据えつつ、構成府県市との連携の下、食品ロスの削減に向けた取組を推進する。</u></p> <p>・<u>ごみの減量化に向け、構成府県市それぞれの取組の深化と関西全域での相乗効果の発揮に向けて、3 Rの取組を一層強化する。</u></p>	<p><u>住民、事業者、関係団体等多様な主体および広域連合の他分野と連携・協力しながら、関西全域で統一的な運動（ムーブメント）を展開する。</u></p> <p>・<u>プラスチックごみの現状や削減への優良事例等を情報収集するとともに、講演会の開催や表彰等を通じて積極的に情報発信を行い、各関係主体による実践行動を促す。</u></p> <p>・<u>これまで取り組んできたマイバック運動やマイボトル運動を継続・拡充するとともに、様々な機会や広報媒体等を活用し、プラスチックごみの一層の削減に向けて関西全域で統一的・効果的な広報・啓発を幅広く実施する。</u></p> <p>・<u>「食品ロスの削減の推進に関する法律」の施行を踏まえ、住民や事業者等が実践されている優良事例等の各種情報を収集し、共有するとともに、関西での一層の気運醸成を図る。</u></p> <p>・<u>食品ロス削減に向けて、関西全体で統一的な広報・啓発を行い、住民、事業者等のさらなる実践行動を促す。</u></p> <p>・<u>「ごみ減量宣言！関西」をキャッチコピーとして、ごみを出さないライフスタイルへの転換によるごみの減量化に向け、構成府県市それぞれの取組が深化し、関西全体で相乗効果が発揮できるよう、3 Rの取組を一層推進する。</u></p>
22	<p>（５）分野横断的な取組</p> <p><u>大阪湾等における海ごみや災害廃棄物対策などの分野横断的な課題については、関西広域連合の本部事務局および関係分野事務局の動きを注視するとともに、必要な連携を図る。</u></p>	<p>（５）分野横断的な取組</p> <p><u>プラスチック対策や災害廃棄物対策などの分野横断的な課題については、国等の動きを注視するとともに、関西広域連合の本部事務局および関係分野事務局と必要な連携を図る。</u></p>